



4月17日のお花見会

【基本理念】 わたくしたちは、すべての人に等しく 仁愛の精神をもって接し、心の通う医療の実践に努めます。

【基本方針】 責任: 生命の尊厳を第一の課題として重んじ責任をもって行動する
安全: すべての行為に対して細心の注意を払い安全の確保に努める
協調: チーム医療に徹し互いに協調しその実をあげることに努める
奉仕: すべての人に等しく仁愛の精神をもって接し医療を通じて社会に奉仕する

仁愛とは

院長 村尾文規



本年は、当院の25周年の節目の年に当たる。四半世紀の時の流れを経て当病院が『在る』。今ここに『在る』ということ、それだけで意義深い。この記念すべき時に、基本理念の中核を成す『仁愛』という言葉の意味を考えてみることは重要なことであると思う。なぜならば、仁愛のこころ、人を愛するその先に幸せになるための何かが潜んでいると思うからである。私たちは、仕事を通じて、世の中は思うに任せないものだということを思い知らされている。夫婦の間柄でさえそうである。しかし、人は独りでは決して生きてはいけぬ存在である以上、他人との関連性のなかで生きていかなければならない。良好な関係を維持するには必然的に生じた規則を遵守することは当然であるが、今一つ、対話の重要性を強調したい。職場では、あらゆる場面で対話がある。日本の文化として個の意見より集団の統一が優先されるために、個の意見が無視されることが多い。この場合、個の信念は大変重要であるが、他人の信念もまた、同様に重要であるということだ。お互いに冷静になって真理に照らして、着地点を見出す努力が必要になる。ラインホールド・ニーバーは、人間の対話の主体を、自分、相手および第3の対話の主体として神様との対話をあげている。変えることができないものはそれを受け入れる勇気を与えてくださいと祈る、他人の信念を思いやる心は、最高の愛情であり、仁愛の心のある人の態度である。同僚を思いやり、たとえ言葉を発することができない先達には、なおさら、愛情を注ぐことが基本理念を實踐することだと思う。中村 元氏は、人が人に対して温かな心をもって生きていくなら、生きがいを見現していると論じている。人は一人では生きてはいけぬというのは不変の真理である。まず、感謝の言葉をかけることを心がけよう、その先に幸せの灯りが見えるはずである。

病院創立25周年によせて 事務長 西村雄二

先日の病院創立25周年祝いを兼ねての患者様のお花見会は、桜の花も祝ってくれているかのように満開で、今までにない最高のお花見会が出来たことを大変うれしく思っています。これには、旬の食材を生かした暖かい手作り弁当を作ってくださった栄養課の皆さん、会場の設営に頑張っていた管理部の皆さん、多くのボランティア職員の皆さんのご協力があったからこそと本当に心から感謝しています。病院が25周年を迎えられたのも、このように病院の為に一生懸命に働いて下さる職員の皆様のおかげだと改めて思いました。

振り返ってみますと、27年前に、私の父であります故西村馨と共に、旧中学校跡地（一時菓子製造工場として使用）に病院を建てる計画を立て、建築準備、資金の調達、研修にと走り回っていたことが懐かしく思い出されます。開設当初は事務長の父の下で、私は事務長代理として、34人のスタッフと共に、ベッド数50床でスタートしました。

スタートしてからも、ベッド50床を満床にするのに約1年かかったり、満床になっても病院の経営は赤字が続き、融資の申し込みに父と数社の銀行に頭を下げて回ったりと、いろんな苦労がありました。50床、75床、85床とベッド数を増やし、3年目にしやっと100床の病院にすることが出来ました。父は病院が軌道に乗る前に他界し、夢半ばで無念だったと思います。しかし、今こうして、皆さんのおかげで25周年を迎えられたことを、天国の父も喜んでくれていることと思います。

父の思いからスタートし、創立25周年を迎えた今、地域の皆様の役に立ち、愛される病院として、約90人のスタッフと共にこれからも頑張っていこうと思います。



昭和62年1月 故西村馨（中央）と共に
西村事務長（右）



現在の医局・玄関付近

アンケートの結果について サービス向上委員会

患者様ご家族へのアンケート調査（平成23年11月実施）にご協力いただきまして、ありがとうございました。記載いただいた皆様からの貴重なご意見やご質問は、今後の病院運営に役立てていきたいと思っております。記載されたご意見・ご質問の一部をお知らせいたします。（集計につきましては、1病棟掲示板に掲示しています）

接遇についてのご意見 / 笑顔がない、返事がない、私語が多い など

接遇研修を行ないました。さらに研修回数を増やすなどして、より良い人間関係の構築に努めます。

医療についてのご意見 / 領収書の記載内容が分かりにくい

請求書に記載されている項目や計算方法は、介護病床と医療病床で異なります。詳細について院内に掲示しておりますが、疑問や質問のある方は、直接受付窓口（医事課）のほうへ お問い合わせください。

病室の変更についてのご意見 / 病状の同じ様な患者を同室にして欲しい

- ① 医学的見地から個室隔離・収容をお願いする場合 ② 院内感染の危険が高いと判断した場合
③ 患者様間の精神的な安定を図る場合

上記など様々な要因で、やむをえず病室を変わっていただくことがあります（事前にお知らせすることなく変更することがあります）、ご希望に添えないことがあります。

勤続二十五周年によせて

佐倉和子 (管理部)

25年といえば四半世紀、人生の大半を同仁病院で過ごしたといえます。喉元過ぎれば熱さを忘れるで、苦楽は思い出せませんが、仕事をしていて個人的に助けられた部分は沢山ありました。最近「自分と未来は変えられる」という言葉を聞いて、創立と共にスタートした病院で、定年を迎えられるようスタッフを大切に、悔いのない仕事ができる様頑張っていきます。



現在の1病棟の建築風景

倉元順子 (看護部)

昭和62年2月21日、前の病院を退職して4年振りの仕事復帰、初めて全員との顔合わせだ。若い(現在の)事務長を始め、ほとんどが若い職員。新しい病院、庄原で初めての療養病床の病院がスタートした。今から25年前のことである。その後、病院が大きくなるにつれ、組織化され、病院機能評価受審が決まってからは病院全体で、目標に向けてひとつになれたことは本当に素晴らしいことだと思った。「やればできるんだ」と…。でも、とてもしんどかった。そして、この25年間多くのスタッフも変わった。忘れた人もいるが決して忘れられない人もいる。忘れてはいけない人も。また、旅行・お花見・懇親会・忘年会など、若かったせいかとても楽しい思い出がいっぱい。振り返ればもっと色々な事があるが、この先もここで働けてよかったと思えるように頑張りたい。



開院当初からある桜

伊東亜由美 (看護部)

ようやく暖かな春の風が吹き、桜が満開の季節を迎えました。開院当初、職員が植えた桜の苗木は25年もの年輪をつけ立派な木に成長し咲き誇っています。

今まで生きてきた年の大半を同仁病院と共に歩んできました。何事かあったとしてもいつのまにか乗り越えていきましたが、良き理解者である大切な人を亡くしてからは、なかなか埋められない大きな穴が開き、今だに涙する事があります。それでも、患者さんの笑顔に支えられたり御家族の方からの喜びの声が聞けることは日々の励みとなります。また様々な人達のサポートに感謝の気持ちを忘れず、今自分のできる事を精一杯努力していきたいと思えます。

谷口和子 (栄養課)

最初は病院勤務一年生で、何もわからないまま、期待と不安の思いで入らせて頂きました。そして、あっという間に二十五年という月日が過ぎました。今では地域の皆様に喜ばれる立派な病院となり、素晴らしい事だと思います。このような病院で働かせて頂ける事はとても光栄に思います。一緒に働かせて頂いております、先生の方々、職員の方々の頑張りと努力の賜物だと思います。私の事でありますが、今までの失敗、その他色々、迷惑をかけた事が多すぎてかぞえきれません。このような私ですが、これからも、失敗迷惑をかけないよう、新たな気持ちで、先生の方々、職員の皆様と共に働かせて頂きたいと思えます。これからも宜しくお願い致します。

中原幸恵 (栄養課)

このような私が、25年間勤めさせていただいたことに、この場をおかりして感謝申し上げます。社会人として出発した場が、この同仁病院でした。未経験の私が開院する病院の栄養士としてやっていくことに私自身も不安だらけでしたが、事務長をはじめ共に働いてきた人達、係わりのあった人達の協力、支えに改めて感謝しています。

25年前…母に患病や不安な気持ちをぶつけては心配をかけていましたが、母が亡くなり20年…今、手を合わせ“ありがとう”を言いたいです。



西側からみた正面玄関

末藤千春 (管理部)

薄いピンクの桜が咲くと春を、黄色に染まった銀杏を見ると秋を…。季節を感じることができる環境で働かせていただいて、25年が経ちました。開院当初、未経験のことに戸惑い、不安でいっぱいでした。知識も経験もない私が、今日までやってこられたのも、周りの助けがあったからこそと感謝しています。

これからも、常に進化していく自分でありたいという思いを大切に、明るい笑顔で、みなさんと共に頑張っていこうと思えます。

満開の桜の下で...

お花見会実行委員

4月17日(火)に患者様のお花見会を開催しました。

当日は、天候にも恵まれ(一瞬雨がぱらつきましたが)、桜の花も満開で、患者様のご家族にも多数参加いただき、大変にぎやかなお花見会となりました。

毎年、当院栄養課職員の手作りのお花見弁当は、患者様やご家族に春を味わっていただこうと、事前に“つくし・こごみ・セリ”などを採りに行き、この日のメニューに加えています。栄養課職員が丹精込めて作った花見弁当を食べながら、つくしやこごみの手料理に「懐かしいね!」と会話がはずみ、「とてもおいしいよ!」と皆さんに喜んでいただいて、職員もみんなが幸せな気分になったひと時でした。開設25年の節目に、本当によいお花見会ができて大変うれしく思っています。



当日のお花見弁当

お花見会の開催にあたっては、職員スタッフをはじめ、職員OBのボランティアの皆さんや職員のご家族の方々など、多くのご協力をいただき、本当にありがたく感謝しています。ご参加いただいた皆様、本当にありがとうございました。

これからもより一層、患者さんをはじめ多くの方の笑顔が見られるようなイベントが開催できればと思います。

～山ちゃんの旅日記～

2病棟 山吉広尚



4月13日、岡山・津山市にある鶴山公園(津山城跡)まで行ってきました。15日まで津山さくらまつりが行われていて、当日は曇りながらも賑わっていました。夜にはライトアップもされていました。この公園は、明治7年に天守閣などの建物が取り壊されましたが、明治33年に城跡を町有地とし、鶴山公園としたそうです。春には日本さくら名所100選にも選ばれている約千本の桜が咲き乱れ、訪れる人の



仲田 舞

調理員

3月5日付で栄養課に配属になりました。1日1日を大切に、いろいろと学んでいこうと思います。よろしくお願いします。



新職員紹介

松田 幸

作業療法士

4月から作業療法士としてお世話になります。松田幸です。私は4年間、島根県の学校へ行っていました。島根に行かれた際は、ぜひ出雲大社に行ってみて下さい。西村先生ご指導のもと、頑張っていきますのでよろしくお願いします。



藤井未通代

看護部2病棟

がんばりますのでよろしくお願いします。



編集後記

春の陽気に包まれ、当院のまわりも沢山の花々がほころび始め、いよいよ春らしくなってきました。

さて、春といえば新しい季節の節目ですが、今年度、当院は25周年を迎えることができました。これを機にスタッフ一同、気持ちを新たに皆さまに携わっていかれたらと思います。嬉しい事や悲しい事など、患者様、家族の皆様、そしてスタッフ皆で共有しあい、共に成長していける関係が築いていければいいなと思います。

